

第4回校内研修会を終えて

8月5日（月）に第4回校内研修会が開かれました。今回の研修会では、淑徳大学名誉教授・新宮弘識先生より「授業づくりと授業以前に大切なこと」という内容の講演会が行われました。

講演会の前半では、道徳の授業づくりについてのお話がありました。道徳の授業を作る際に、教師が一人の人間として

「教材をどう読むか」この「読み」が重要であるということや、教材の登場人物の「行為の選択（良し悪し）に留まるのではなく、その行為を生んだ心を問う」必要があるということなど、授業づくりのポイントを学ぶことができました。そのことが、「人間とは何か」について考える道徳の授業、「人間の良さ＝道徳的価値」を語る道徳の授業になるということを教えていただきました。



道徳教材「手品師」を例に考える道徳の授業

腕はいいがあまり売れない手品師がいた。彼は大劇場のステージに立つことを夢見て、日々腕をみがいている。ある日、しょんぼりしている男の子に出会い、手品を見せてやることにより、その男の子は元気を取り戻す。そして、次の日も手品を見せることを約束した。その夜、仲のよい友人からの電話で、大劇場に出るチャンスがあることを知らされる。手品師は、大劇場のステージに立ちたい気持ちを捨て切れずに悩むが男の子との約束の方を選ぶ。そして次の日、たった一人の小さなお客さまを前にして、次々とすばらしい手品を演じるという内容の教材。



「行（行為）」の選択だけに注目する授業では意味がない。大事なことは「行（行為）」から、行為を生む「考え」や「突き動かすもの」を考える授業にしたい。その際、人間の良い部分も悪い部分も考えるようにする。授業の中で、人間の悪い部分が見えてくると、自ずと人間の良さに向かって生きようとする心が生まれてくる。すると最終的に「人間に良さ＝道徳的価値」に迫る道徳の授業になる。

授業以前に大切なことに関する講演

講演会の後半では、授業以前に大切なことに関するお話がありました。大きく分けると4つのお話がありましたが、どのお話も教育活動の原点とも言える重要な内容でした。自分自身の教育実践を振り返るきっかけにもなる講演会でした。

気

【授業以前に大切なこと①】 「気」を大切にする。

- ・子どもたちは学ぶ「気」があるか……、子どもたちは学び合おうという「気」があるか……
→子どもたちの「気」を引き出すカギは「教師の人間力」「教師の授業力」

【授業以前に大切なこと②】 「優しさ」と「厳しさ」のバランスを大切にする。

- × 人気を得るための「優しさ」、結果への「厳しさ」
- 気持ちを理解してあげる「優しさ」、態度への「厳しさ」
→伝える際、事の是非を教え諭す必要がある。



【授業以前に大切なこと③】 子どもの可能性に着目した教育を実践する。

- ・「良いところを褒めて伸ばす」と「悪いところを改善させる」ことのバランスが大切である。

【授業以前に大切なこと④】 「子どもの主体性」と「教師の指導性」のバランスを大切にする。

- ・「子どもの主体性」に任せた学びには限界がある。
- ・そのため、子どもの学びたい気持ちを引き出す「教師の指導性」も必要である。
例) 学ぶ一人の人間として子どもたちに問いかけ、疑問を引き出すなど

【学んだことや感想から】

- これまでの自分が行っていた道徳の授業は、行為について考える授業が多かったと反省しました。教科書に書かれている「立派なこと」を教えるのではなく、「その行為を生む心」を考え、人間の良さを生徒とともに考えていける授業を目指していきたいです。
- 「気」に満ちた教室をめざし、生徒に問題意識を持たせ、授業が始まったら「共に学び合おうとする気」を自分も持ち、授業に臨みたいです。また、生徒の可能性を信じ、特に「優しさ」と「厳しさ」のバランスを考えていきたいです。「生徒が伸びてほしい」という思いを持ち、結果の過程への「厳しさ」を持ちたいと思いました。
- 「子どもの主体性と教師の指導性のバランス」という言葉が一番印象に残っています。子どもの願いや想いを常に意識している反面、自分の指導性はどうなのかと考えるきっかけになりました。子どもたちの良さを引き出すようなテクニックを身に付けたいです。そのために、他の先生方の良い部分を学び、自分自身の授業力改善につなげていきたいです。
- 性善説にもとづき、人間の良さ向かうために道徳授業があるというお話は分かりやすく、納得できるものでした。「優しさ」と「厳しさ」を持ち、子どもの可能性を伸ばすために教育活動があるという考え方は、道徳だけではなく、すべての教科・行事など、あらゆる場面で大切な「芯」となるものだと感じました。

道徳

